

# 指定管理者制度導入施設 モニタリングシート

評価年度	令和3年度
------	-------

## 1 基本情報

公の施設名	市民・大学交流センター(ユニコムプラザさがみはら)
指定管理者名	公益社団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム
指定期間	平成31年4月1日～令和4年3月31日
施設設置条例	相模原市立市民・大学交流センター条例
施設の設置目的	市民と大学等との連携により、地域の課題の解決及び地域の活性化を図る (相模原市立市民・大学交流センター条例第2条)
施設概要	・所在地 南区相模大野3丁目3番2-301号 ・床面積 2,965.82㎡ ・構造 鉄筋コンクリート造 ・施設 セミナールーム1・2、実習室1・2、ミーティングルーム1・2・3・4・5 マルチスペース、AVスタジオ、シェアードオフィス1・2・3、 大学情報コーナー、地域情報コーナー
施設所管課	市民局 市民協働推進課

## 2 管理実績

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用者数合計(人)	185,025	178,206	163,450	34,162	58,011
利用料金合計(円)	30,236,670	30,510,633	27,024,032	12,368,435	24,217,866

## 3 成果指標の達成度

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
<b>D</b>	<p>達成度が80%未満のため、基準に基づき評価は「D」となる。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響があった中で、感染症対策を徹底し、感染者を出さずに施設運営、事業を継続したことを高く評価する。([施設開所日]予定日数:356日、実日数:302日&lt;時短開設・利用制限あり)</p> <p>■指標1の達成度については、コロナ禍による利用控えの影響が大きく67.3%となっている。感染状況に応じた休所、時間短縮などの利用制限、それに伴うキャンセル等に円滑に対応したことを評価する。</p> <p>■指標2の達成度については、(1)シェアードオフィス34.6%、(2)大学情報コーナー120%、(3)地域情報コーナー110.1%となっている。シェアードオフィスについては社会起業家の利用促進など新しい取組を評価する。また、大学情報コーナー・地域情報コーナーの利用率は高い状況が続いており評価できる。今後は施設を通じて各主体が連携した地域活動の発展を期待する。</p> <p>■指標3の「市民と大学との橋渡し」については目標を達成できた。指定管理者からの事業報告書では36件との報告があったが、コロナ禍で引き続き大学との連携が困難であったことを考慮し、大学の専門性を活かした橋渡し13件、学生の活動機会の提供等14件の計27件を指標の対象として評価した。施設を利用する学生登録会員に対し、地域活動団体の事業やイベント等への運営参画を促す取り組みは評価できる。ただし、第三者にも理解できる内容での橋渡しの取組み、市民や大学・学生が連携の相談をしたくなるような報告を行っていただきたい。</p> <p>■指標4(1)は4団体をまちづくりモデル事業として新規に認定したことにより、対話の数の達成率が100%であった。前年度以前に認定した団体の活動も継続して支援していることと合わせて評価できる。指標4(2)はまちづくりプロジェクトとして大学の協力が必要であるものの、大学自体の活動の停滞により、着手が困難な状況であったため、今後の取組に期待したい。</p> <p>■コロナ禍で特に指標1、2(1)、4(2)への影響が大きかったものの、一方で施設の設置目的の達成に直接的に関係する成果指標3、4(1)は目標値に達していることを高く評価する。</p> <p>■指標4(2)など令和4年度以降の目標値については、これまでの実績値やコロナ禍の影響等を踏まえ、再考の余地があると思われる。</p> <p>※成果指標については新型コロナウイルス感染症の影響が不確定であったため変更しないこととした。</p>

<b>指標 1</b>	
指標名 (単位)	【指標1】有料施設の利用率(シェアードオフィス、大学情報コーナー、地域情報コーナーを除く)(%)
指標式と指標の説明	指標式: 有料施設の利用コマ数/有料施設の利用可能コマ数×100 有料施設の利用率を指標とすることで、施設の活用を図るとともに、施設利用者への施設の設置目的の認知度向上を推進するもの。

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標値 (%)	75.0	80.0	82.0	84.0	85.0
実績値 (%)	69.1	75.8	76.6	58.5	57.2
達成度 (%)	92.1%	94.8%	93.4%	69.6%	67.3%

<b>指標 2 (1)</b>	
指標名 (単位)	【指標2(1)】有料施設の利用率(シェアードオフィス)(%)
指標式と指標の説明	指標式: 利用日数/利用可能日数×100 【①個人<30名>、②団体<8団体>、③大学<4大学>】 シェアードオフィス、大学情報コーナー、地域情報コーナーの利用率を指標とすることで、大学の情報の発信及び地域活動及び市民活動を推進するとともに、大学との連携を図っていくもの。

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標値 (%)	75.0	80.0	82.0	84.0	85.0
実績値 (%)	50.8	43.8	41.8	34.7	29.4
達成度 (%)	67.7%	54.8%	51.0%	41.3%	34.6%

<b>指標 2 (2)</b>	
指標名 (単位)	【指標2(2)】有料施設の利用率(大学情報コーナー)(%)
指標式と指標の説明	指標式: 利用日数/利用可能日数×100 【(大)<15ブース>、(小)<2ブース>】 シェアードオフィス、大学情報コーナー、地域情報コーナーの利用率を指標とすることで、大学の情報の発信及び地域活動及び市民活動を推進するとともに、大学との連携を図っていくもの。

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標値 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
実績値 (%)	100.0	93.3	106.7	113.3	120.0
達成度 (%)	100.0%	93.3%	106.7%	113.3%	120.0%

<b>指標 2 (3)</b>	
指標名 (単位)	【指標2(3)】有料施設の利用率(地域情報コーナー)(%)
指標式と指標の説明	指標式: 利用日数/利用可能日数×100 【(小)<9ブース>】 シェアードオフィス、大学情報コーナー、地域情報コーナーの利用率を指標とすることで、大学の情報の発信及び地域活動及び市民活動を推進するとともに、大学との連携を図っていくもの。

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標値 (%)	75.0	80.0	82.0	84.0	85.0
実績値 (%)	47.7	88.9	83.7	98.4	93.6
達成度 (%)	63.6%	111.1%	102.1%	117.1%	110.1%

<b>指標 3</b>	
指標名 (単位)	【指標3】地域活動や市民活動を行う市民と大学との橋渡し件数(件)
指標式と指標の説明	市民(市内で活動する個人、団体、NPO、企業等)と大学が連携して、地域の課題解決や活性化を実現するための助言や企画提案等を行った件数を指標とする。

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標値 (件)	20	25	26	26	26
実績値 (件)	20	26	26	28	27
達成度 (%)	100.0%	104.0%	100.0%	107.7%	103.8%

<b>指標 4 (1)</b>	
指標名 (単位)	【指標4(1)】「地域づくりプロジェクト」の対話の実施回数(回)
指標式と指標の説明	「市民と大学が地域課題の解決や地域の活性化を目的とした交流、研究、対話等を行う機会を提供する業務」の成果を測る指標の1つ目として設定することで、センターの設置目的の達成を図るもの。

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標値 (回)	-	-	4	4	4
実績値 (回)	-	-	5	7	4
達成度 (%)	-	-	125.0%	175.0%	100.0%

<b>指標 4 (2)</b>	
指標名 (単位)	【指標4(2)】着手した地域づくりプロジェクトの本数(本)《令和2年度から評価》
指標式と指標の説明	「市民と大学が地域課題の解決や地域の活性化を目的とした交流、研究、対話等を行う機会を提供する業務」の成果を測る指標の2つ目として設定することで、センターの設置目的の達成を図るもの。

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標値 (本)	-	-	-	4	5
実績値 (本)	-	-	-	0	0
達成度 (%)	-	-	-	0.0%	0.0%

4 事業の実施状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
A	<p>評価基準に基づき、評価は「A」とする。</p> <p>■①コロナ禍での制限や新たな負担が生じる中で、感染症対策を徹底した上での施設の運営や事業の実施の工夫を行っていることを評価する。まちづくりフェスタを展示形式で、各セミナーやイベントをオンライン配信・併用で実施したことは評価できる。</p> <p>■⑤さがみはら地域づくり大学において、ターゲット別に講座を実施した。特に学生向け講座の受講生の中からは、その後、市のシビックプライド向上計画策定委員への推薦・参画に繋がった。また、急な施設休所に対してオンライン対応により講座を継続したことを評価する。講座内容の魅力向上、広報の強化により引き続き受講生の増加に取り組んでいただきたい。</p> <p>■④各情報コーナーや窓口・フリースペース等やSNSにて、施設による橋渡しを通じた地域連携の取組内容も発信して、大学との連携に係る市民相談や、プロジェクトに参画する大学を増やせるとよい。</p> <p>■⑥センターの利用促進について、学生スタートアップ事業として学生登録会員向けに施設や市の事業への参画機会の提供を行っており、instagramを新たに開設しより幅広い周知に取り組んだこと、また、フリースペースを活用した学生向けのアート展等の取組について高く評価する。今後は学生各々の特性に合わせた活動先を紹介するなど、事業運営の参画に繋がることを期待する。</p> <p>■⑦まちづくりモデル事業については、施設休所に伴い企画が複数回延期・中止になったものの、感染症対策を取った上で実施していることを評価する。今後、大学と連携したまちづくりプロジェクトへの発展を期待する。</p> <p>■⑩学生インターンシップの受入れにより、施設の各事業にて学生の意見を取り入れることで、若年層の施設利用、事業参加の増加に繋がったことを高く評価する。</p>

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
センターの運営・管理 事業計画書①	「7管理状況」と重複のため 評価はなし	センターの運営・管理に関する業務	○
大学連携に係る施設利用等 に関する事業 事業計画書②	通年	大学連携に係る施設利用等に関する事業	○
	通年	<p>【大学連携に係る施設利用】</p> <p>大学との連携により地域の課題の解決又は活性化を図るための事業のための利用</p> <p>■大学連携に係る利用数:20件</p>	○
	通年	<p>【団体登録】</p> <p>大学等との連携により地域の課題解決又は活性化を図るための事業を施設にて実施する団体の登録</p> <p>■登録団体数:43団体〔前年度比3増〕</p>	
さがみはら地域づくり大学の運営等 に関する事業 事業計画書⑤	通年	地域活動や市民活動への参加方法を知り、活動に結びつけ、更に活動を牽引する担い手づくりを目的とした事業	○
	9月～1月	<p>【さがみはら地域づくり大学】</p> <p>市民等が、協働の観点での地域活動及び市民活動を促進するために役立つ知識や技術を体系的に学ぶことのできる場の提供</p> <p>■講座数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座:1講座</li> <li>・基礎コース:5講座、応用コース:5講座、専門講座:3講座</li> </ul> <p>■受講者数《目標値:コース受講者数:16名》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座受講者延べ数:68名(実申込者数:85名)</li> <li>・コース受講者:9名(基礎コース8名、応用コース1名)</li> <li>・講座の単発での受講者:42名</li> <li>・コーディネーターズサークルメンバー登録者数:5名</li> </ul>	○
	通年	<p>【コーディネーターズサークル】</p> <p>修了者の活動のフォローやスキルアップ、修了者同士の交流に繋がる機会の提供</p> <p>■開催数:3回(4回計画のうち1回中止)</p>	

企画提案事業			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
大学の研究教育活動や地域連携の取組等の情報を発信する事業 事業計画書③	通年	情報コーナー出展大学・団体による地域貢献の取組事例や市民・他団体、大学との連携について紹介する事業	○
	通年	【情報誌(月刊誌)UNICOM PAPERの発行】 施設の事業、大学・施設利用者の活動や、市民と大学との連携に関する情報の紹介 ■年12回発行、毎月2,500部、約200ヶ所に配架	
地域活動や市民活動を行う市民と大学との橋渡しをする事業 事業計画書④	通年	市民と大学が連携を深め、課題を共有し、大学の専門性と人材を活用して地域課題の解決や地域の活性化に取り組むための橋渡し事業	○
	通年	【市民・大学等のニーズ・シーズ調査】 施設利用者・施設関連大学へ連携事業の希望をヒアリングし、団体登録や大学との連携やシェアードオフィス利用に繋げる。 ■ピックアップ件数:44件 うち橋渡しへの発展件数:4	
	通年	【市民と大学等の連携支援】 ■相談件数:延べ138件(同一案件の重複あり) ■市民と大学・学生との連携数:27件 対大学:13件・対学生等:14件	
	通年	【シェアードオフィス交流会】《年間12回計画》 シェアードオフィス入居者同士の連携、協働を目的とした交流会	
センターの利用の促進に係る事業 事業計画書⑥	通年	センターの利用と、市民と大学との連携の促進を目的としたPR活動・情報発信する事業	◎
	通年	【フリースペースの活用】 新たな層の地域活動への参加を促進し、新たな協働が生まれる場として有効活用する。 例)・月替わりで大学・高校等の作品展を開催 ・地域活動に関する情報を掲示できるホワイトボードの設置	
	通年	【施設及び事業の広報・PR】 センターの利用、市民と大学との連携促進を目的としたPR ■情報誌《月1回発行》 ■ホームページ《週2回更新》 ■SNS(Facebook、Twitter、LINE、Instagram) ■ニュースリリースの発行:年10回	
市民と大学が地域課題の解決や地域の活性化を目的とした交流、研究、対話等を行う機会を提供する事業 事業計画書⑦	通年	実行力を持つ市民と大学が交流する場を設定するとともに、協働して研究する機会を提供する事業	○
	通年	【市民・大学交流会】《年間6回計画》 大学との連携を希望する個人・団体と大学が交流する場 ■開催数:5回(7回計画のうち2回中止) ■参加者:計110名 ※ユニコムセミナー1回含む	
	通年	【まちづくりモデル事業認定団体の支援】 地域の課題解決や活性化に関するテーマに基づいて定期的な活動を行う団体を支援する事業 ■当年度活動団体数:14団体 ・令和2年度以前から活動継続する団体:7団体 ・令和3年度から活動する団体:7団体 ■まちづくりモデル事業認定団体報告会:1回	
	通年	【まちづくりプロジェクトの企画運営】 地域の課題解決や活性化に関するテーマに基づいて市民と大学が連携して実施する事業 ■当年度実施プロジェクト数:0件	
	5月9日(日)	【ユニコムサミット】《年間1回計画》 地域に関するテーマに関わる団体や専門家が直面する課題についてディスカッションを行う事業 ■参加者:29名 ■テーマ:「こども・若者がコロナ禍で生き抜くために」	
	10月1日~31日	【第9回まちづくりフェスタ交流展示会】《年間1回計画》 まちづくりをテーマとした市民と大学の協働事業の成果を発表・共有し、交流を図る事業 ■出展:11大学・専門学校を含む31団体 ■見学者:200人以上(カウントした数のみ)	

施設の集客や知名度の向上を図り、施設の活性化を推進する事業 事業計画書⑧	通年	施設の知名度の向上を図り、施設来場者の増加や、施設の活性化を推進するための事業。	○
	通年	【オーサズカフェ】《年間24回計画》 市民向けに「身近な話題をテーマにした講座」を実施し、施設来所者を増やす事業 ■開催数：19回(ほか5回が中止) ■参加者：延べ578名	/
	7月～10月 (8, 9月一部休所)	【アートイベント】 近隣の美術系大学や高校と協力し、市民が芸術を気軽に楽しむきっかけを提供する事業 ■開催数：2回	
市民サービス水準を確保及び向上する事業 事業計画書⑨	通年	利用者アンケートや満足度調査の結果からの改善により、利用者へのサービス向上を図る事業	○
	通年	【利用者からの要望対応】 利用者アンケート・満足度調査などで得られた利用者からの意見の反映 ■対応内容：Wi-Fiの中継器3台を購入・貸出し	/
	通年	【調査報告書の公開】 調査報告ならびに結果を施設ホームページで公開するとともに、記者クラブ向けにニュースリリースを発行し情報提供した。	
団体独自の発想に基づく事業 事業計画書⑩ 「学生スタートアップ事業」 「学生インターンシップ」	通年	積極的に大学生が地域活動に参加できる仕組みづくりとしての事業	◎
	通年	【学生の地域活動への参画支援】 学生への地域活動に係るイベント・事業の運営に参画する機会の提供 ■参画先のまちづくりモデル事業認定団体：11団体	/
	通年	【学生向け情報発信】 施設を利用する登録学生向けの地域活動や学生生活に役立つ情報の提供 ■LINE登録者数：99名	
	通年	【学生団体の施設減免利用／学生専用ブース】 ロビー2に設けた、学生の活動に使用する専用ブースの管理運営 ■学生団体の地域活動による減免利用数：22件	
	通年	【学生インターンシップ】 施設でのインターンシップ受入れによる学生支援 ■受入数：20名、大学数：延べ7大学	
地域や他団体との連携、地域活動に関する事業 事業計画書⑪	通年	センターが市民・大学や協働推進拠点と連携して、各主体の地域活動を支援する事業	○
	通年	【センターにおける市民との連携】 センターと市民(市内で活動する個人、団体、NPO、企業等)とで連携した取組 例)・小学生によるパフォーマンス発表の場として、老人ホームの紹介・橋渡しを行った。 ・商業ビル内の他店舗の広報支援・情報の共有化	/
	通年	【センターにおける大学との連携】 センターと大学とで連携した取組 例)・大学のSDGsの取組展示 ・施設事業での大学教授への講師登壇	
	通年	【センターにおける市各課・関連施設との連携】 センターと市各課・関連施設とで連携した取組 ■市民活動サポートセンター ：よろず相談、「利用団体活動紹介パネル」の展示 ■その他 例)・南区民会議に参加し情報収集・交換を行っている。 ・情報コーナー等で、南区の広報・事業周知に協力した。 ・市子ども若者支援課「大学生食材支援」をロビーで3回開催し、運営ボランティア学生を紹介した。 ・市各課からの依頼により学生向け事業をLINEでの周知を行った。	/



6 施設の経営状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
B	<p>事業収支、全体収支としては赤字のため加点なし、法人の財務状況としては特段の課題はないため加点10点とする。計10点として評価基準に基づき、評価は「B」とする。</p> <p>■ 本体事業収支、全体収支について、引き続き施設休館・利用制限の影響が大きく、想定よりも減収したことにより赤字(▲約142万円)である。運営上、令和2年度分の損失補償(約31万円)を含めた額では赤字(▲約111万円)となっている。</p> <p>■ コロナ禍で進展できなかった大学との連携事業に係る本来の事業費も考慮した収支計画を立てていただきたい。</p> <p>■ 備品購入や施設修繕等の利益の還元は、全体収支のバランスを考慮した上で引き続き行っていただきたい。</p> <p>■ 施設や設備を有効活用した自主事業により収入を確保していただきたい。</p> <p>■ 法人の正味資産は約1,539万円(前年度比約62万円の増額)となっており、公益社団法人の財務状況として特段の課題はなく、適正な状況と評価できる。ただし、規模が小さいので、何か突発的な事項が発生すると影響が大きい可能性がある。しかし、総資産の2/3は預金のため、直ちに影響があるわけではないと思われる。ただし、コロナの影響と思われるが利益額が減少している点が少し気になる。引き続き公益社団法人として、適正な範囲での収益を確保するよう努めてほしい。</p>

施設の収支概要		※直近3年間について記載			(千円)
項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
収入 (a)		72,472	73,793	74,412	
指定管理料		42,552	42,893	37,873	
利用料金収入		29,141	13,205	25,032	
その他の収入		779	17,695	11,507	
支出 (b)		73,098	75,140	75,841	
人件費		40,807	42,332	42,295	
本社管理経費		2,434	2,434	2,434	
その他の支出		29,857	30,374	31,112	
本体事業収支 【(a)-(b)】 (c)		-626	-1,347	-1,429	
自主事業収入 (d)		0	0	0	
自主事業支出 (e)		0	0	0	
自主事業収支 【(d)-(e)】 (f)		0	0	0	
全体収支 【(c)+(f)】		-626	-1,347	-1,429	
備考	<p>(a)収入の主な変動は0.8%の微増            ・指定管理料は、料金改定による収入増見込みにより11.7%減            ・利用料金収入は、コロナ禍の影響のやや減により89.6%増</p> <p>(b)支出の主な変動は、コロナ禍で進展しなかった事業分が減少した一方で、光熱費・備品購入費の増額により1.0%の微増となっている。            ・光熱費は、換気対策の強化や電気料金値上げにより61.6%増            ・感染症対策に係る消耗品・備品を、補助金で購入</p> <p>(c+f)前年度比較では6.1%の赤字増となっており、引き続きコロナ禍での影響を大きく受けている。</p>				
団体の財務状況	団体本体の経営状況について特段の問題はない。				

## 7 管理業務の履行状況

検査方法	市チェックリストに基づき、指定管理者へのヒアリング・現地確認により検査を実施	
実施時期	令和3年7月・令和4年2月	
検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	
有	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ネット回線強化の利用者要望に対するWi-Fiの中継器3台を購入・貸出し</li> <li>■ 予約システムの入替えによる還付対応の効率化、利用申請手続きにかかる時間の短縮</li> </ul>	

## 8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成	有
-----------	---

ウェブアクセシビリティの取組項目	取組状況
機種依存文字を使っていない。	○
ページ内の文字の大きさを変えることができる。	×
単語の途中にスペースや改行を入れていない。	○
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。	○
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。	×
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。	×
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。	○
その他取り組んでいること	

## 9 指定管理者の自己評価

■指定管理第三期の3年目（通算9年目）は相変わらずコロナ禍に見舞われ事業は思った通りに遂行できなかった。

■時短、休館、定員制限が繰り返され、利用者数、利用率は戻っていない。利用料収入が見通せないため、人件費がかかる運営管理者（副所長）の増員は令和4年度に見送った。

■シェアードオフィスは活動の休止や在宅への移行が進み利用率はさらに落ち込んだが、令和4年度は起業予定者・社会起業家が順調に入居しており、年度末には令和2年度の利用率に戻る見通しである。

■「市民と大学との橋渡し」は大学・市民の活動が再開し、相談件数が増えてきたため活動を諦めないように、橋渡しの可能性があるものについて1件ずつ丁寧に対応した。その結果、橋渡しに至った件数が36件と多めになっている。また、全てにおいて助言や企画提案等を行っているが、特に企画提案を増やすためには外部との交渉が必要で、渉外機能の充実が不可欠である。

■「地域づくり大学」は見直しを進め一部を令和3年度に反映させることで参加者数などが改善した。令和4年度は着実に改善している。

■重点施策である、「まちづくりモデル事業」から「まちづくりプロジェクト」への発展は活動がようやく再開されたもののゼロからのやり直しとなり、大学側も再開した直後に対応できる状況になく、プロジェクト化には至らなかった。一方、まちづくりモデル事業以外のテーマに取組み大学との連携が見えるまでに至った。

■「学生のスタートアップ事業」「学生インターンシップ」は登校再開と共に活発となり、多様な学生団体が活動している。学生コーナーは日々利用されており、LINE配信も軌道に乗っている。

■休館に伴う利用料収入減はあったものの運営上の節減を行いつつ、新たな指定管理期間に向けて予約システムの入替え、リース物件の見直しを行った。公益社団法人の財務状況として特段の課題はなく、引き続き適正な運用に努める。

## 10 所管課意見

■引き続き休館や利用制限などコロナ禍の影響が大きいながらも、工夫しながら適切な管理運営及び事業の実施がなされていることを評価する。

■施設の利用率はコロナ禍の影響が大きく、新たな生活様式も見据えた各施設の特性に合わせた取組によるさらなる向上を期待する。

■令和3年度も引き続き大学や団体自体の活動の停滞により、市民と大学との橋渡しや、まちづくりプロジェクトの取組が困難な状況であった。大学や団体の活動の再開に合わせて、施設の設置目的に即した各事業にて大学の専門性を活かした連携の増加や、完了までに時間を要する取組について長期的な視点での支援を期待したい。

■学生の活動機会が限定される中で、学生の地域活動スタートアップ事業として、ソーシャルディスタンスも考慮した学生ブースの設置などの場の提供や、各主体の事業・イベントにて運営を担う学生の参画に繋げる取組を高く評価する。今後は学生登録会員の増加や、学生各々の特性や専門分野をより活かした参画に期待したい。

■コロナ禍で窓口での市民相談からのピックアップが困難であった。コロナ禍で新たに生じた市民にとっての地域課題を把握しつつ、これまでの取組事例の紹介など施設にてできることを市民に分かりやすく提示することで、窓口相談を増やしたり、地域活動団体や大学に対して事業担当の積極的な渉外による連携ニーズの掘り起こしを行っていただきたい。

■施設と事業のさらなる知名度、魅力の向上により、幅広い層の市民の大学連携へのきっかけ作り、各事業への参画者の増加を図っていただきたい。

■大学との連携を希望する市民や、シェアードオフィス利用者、まちづくりモデル事業認定団体などに対して、大学を誘い込んで、大学の専門性や人材を活かして実際に地域課題解決や地域活性化に繋がる助言・企画提案を行っていただきたい。

■利用者満足度調査における総合的な満足度は97.8%と高くなっており、利用制限についての意見はあるものの、施設に対しては市民や利用者に好意的に受け入れられているといえる。引き続き丁寧な利用案内を行っていただきたい。

## 11 選考委員会意見

■「大学との橋渡し」としては大学単位で地元の大学との連携を考えることが一般的である。市民から大学への直接の連携依頼はハードルが高い。橋渡しを行う連携支援の専門窓口として、施設がこれまで大学との間で構築してきた長期的な関係性を活かして、大学や学生が参画したくなるような的確な助言と魅力的な企画提案を行うことで、市民に対して大学との調整・交渉を支援していただきたい。

■満足度調査における不満足との回答理由を分析して、施設運営や利用者への案内に生かして欲しい。コロナ禍での利用制限の影響があるのであれば、そういった意見を反映できるようにアンケートの調査項目を見直す必要もあるのではないか。今後のSNS等を活用した意見聴取に尽力してもらいたい。

### 総合評価（自動判定）

**B**

(60/100)

